

立山町公共交通活性化協議会庁内WG（第2回）の開催結果について

1 会議の概要

- (1) 日 時 令和7年10月8日（水） 8時59分～10時15分
- (2) 出席者 庁内WG構成員 10人
- (3) 議 事 ① 立山町地域公共交通計画の策定に向けた議論の経過について
② 立山町地域公共交通計画（素案）について

2 主な意見

- (1) 立山町地域公共交通計画（素案）について

- ・定期券の改善や他分野と連携した運行方法の検討、交通リテラシー教育による利用促進などの施策や利用者数に関する目標については、事業趣旨や実現可能性の観点から再考や慎重な検討を求める意見があった。
- ・既存の事業の枠組みを拡大する施策については、比較的取り組みやすいとの意見があった。
- ・利用するきっかけづくりを行う施策については、好意的な意見がみられた。

発言者	意見概要
商工 観光課	<ul style="list-style-type: none">・施策4－1について、町内企業に対し<u>公共交通利用デー</u>、<u>ノーマイカーデー</u>や<u>時差出勤</u>などを呼び掛けることは、大変重要である。一方で、<u>企業側のインセンティブ</u>等が明示されない中で呼び掛けても、多くの企業が公共交通機関から一定離れた場所にある中では、<u>なかなか目に見えた効果は出てこない</u>のではないか。商業施設の誘致についても、施設の具体が分からない中では何も言えないが、<u>立地適正化計画等との整合</u>についても考える必要がある。
商工 観光課	<ul style="list-style-type: none">・施策1－5については、<u>たてポで定期券を購入</u>できれば、たてポの魅力は上がる一方で、域内循環という本来の目的と相反するといった課題もある。このため、<u>事業の名称</u>については、<u>再度検討</u>いただきたい。・施策2－9の<u>物販の強化への支援</u>の部分については、交通事業者がイベントに出店できるよう、町内のイベント<u>主催者等に声掛け</u>すること自体は可能である。この場合に、交通事業者ごとに<u>出店内容をリスト化</u>したものを見れば、つなぎやすい。一方で、出展料の補助や優先枠の確保については、正直分からぬ。・施策3－1については、今年度補助要綱の改正を行い、出店支援の対象を<u>寺田駅</u>、<u>稚子塚駅</u>、<u>岩崎寺駅</u>の半径500m以内の空き家にまで<u>拡大</u>したので、今後はこの活用に向け取り組みたい。<u>自治会との連携</u>の面では、駅での自治会イベントの開催を促すときにどんなことができるか、具体例を出していただきたい。
商工 観光課	<ul style="list-style-type: none">・施策2－4の雄山高校の進路学習について、町では、令和2年に<u>雄山高校と包括連携協定</u>を結んで以降、毎年2年生を対象に、交流や町の課題解決に向けた提言を含む事業を1年間かけて行っている。この中に<u>電車、バスの進路学習を組み込むことは可能</u>。・施策2－9に関連し、現在、推進交付金を財源に、<u>鉄道やタクシーを絡めたまちなかを中心としたツアー造成</u>を町観光協会へ委託している。この中で立山駅

	や称名滝を周遊できるツアーなども検討しており、こうした事業とも連携できるのではないか。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 現在、小学校の適正規模・適正配置推進計画を基に、統廃合に向けた地元説明会等を行っている。統廃合に伴う通学環境の整備の面で、鉄道線沿線にある小学校であれば、通学手段として公共交通利用も検討できるが、これまでの経緯から、保護者からのスクールバスの運行要望は高いと想定される。立山町が所有するバス車両は5台あり、うち最も古いものは16年経過している。今後の更新計画の策定に当たっては、施策2-2を踏まえ、<u>車両のレンタルを含めた運行委託について検討する必要があると考える。</u> 小学校における<u>出前授業については、校長会等での検討</u>が必要ではあるものの、新年度開始前の早い時期から、相談しながら進めていければと考える。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の適正配置については、実際に統合が決まってから、その地域や保護者の方と通学手段を決めることとなる。<u>立山登山学習</u>では、地鉄の運賃全額や、立山黒部アルペンルートの利用料の一部を補助しているが、<u>学校への伝え方の工夫</u>等を行うことで公共交通の更なる利用につながるのではないか。インセンティブ面も含め、相談には応じられる。また、<u>新規で学校と連携した事業</u>を行う場合には、1月下旬から2月中旬には翌年度の学校行事日程がある程度固まるため、校長会の場や年度初めの学校向けの<u>財務担当者会議の機会</u>を通じて相談しながら進めていければと考える。
建設課	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針1の<u>目標1には現状値と比べ20%増を目指す</u>とあるが、都市計画マスターplan等の検討時に、<u>利用者増は難しいのではないか</u>との声が多くの委員から寄せられた経緯もあるので、無理しない方がよいのではないか。 施策1-7については、令和10年度からの実施を想定した場合、<u>令和8年度には予算要求すべき</u>と考えるがどうか。 施策3-2については、利用者ニーズを踏まえた<u>点字ブロックの施工範囲</u>等について、意見を聞きたい。また、五百石駅へのアクセス歩道の拡幅については、今年度から用地買収等に着手している。
健康福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 施策2-2について、<u>病院バスなど既存の移動手段を活用</u>していくことであれば、<u>事業者等の理解や協力</u>も必要となる。医師会からは、町営バスの停留所設置に当たっては、病院等の位置を考慮していただきたいと聞いている。現状として、巡回バスは小型化が現実的と考えるが、定期受診する高齢者の方を対象に、<u>予約日に合わせたタクシー予約のサービスを構築</u>し、時間帯やルートが近い方々と一緒に運送できれば一定の乗合や家族送迎の負担軽減につながる可能性がある。 これまでの経験から持病のある方は、誰かが付かないと外出が難しいという感覚があり、<u>高齢者の運転免許返納時等にお試し切符を配付</u>し、公共交通を利用するなど公共交通を「使える」と思ってもらう経験をしていただくのもよいと考える。介護施設までの移動を送迎ではなく、公共交通利用に転換した際にインセンティブ等があれば使ってくれる人も出るのではないか。将来的には、公共交通のないところで困りごとが生じることから、<u>医療Ma a S</u>に取り組んでいる自治体もあるように、本当に弱者を救う場合には、医療機関が自宅付近に来るといったこれまでと逆の視点での行政サービスを考えいくことも必要である。このほか、現在、付与する<u>健康づくりポイントの制度</u>を応用し、検診会場に公共交通機関で来た場合に、ポイントの一部を公共交通分として付与することができればよい。
健康	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害を持つ方々は、立山町内に病院等がないため、主にタクシーで上市町

福祉課	<p>や富山市に通院している現状があり、<u>タクシー事業者への補助</u>等の検討が必要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、運転免許を自主返納した高齢者の方に<u>交通ポイントを付与しているが、制度の情報が届いていない</u>方もおり、より一層情報連携、情報発信に取り組む必要がある。
健康 福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 施策2－2について、<u>保育所送迎バスの他の交通手段との統合</u>については、チャイルドシートの問題や個別対応が必要なケースなどがあることから、<u>慎重な検討が必要</u>と感じている。立山子育て支援センターの行う<u>ファミリーサポート事業</u>では、協力会員による習い事送迎等も行っている。協力会員には祖父母世代が多く、利用する保護者からは送迎は若い方に、との希望も聞かれるため、将来的には、<u>施策2－3の導入検討</u>も必要となると考える。 主觀も入るが、高校生の通学定期券は非常に高額であるため、<u>雄山高校の生徒やそれ以外の方への補助はとてもよい</u>と思う。

(2) 欠席者からの意見

提出者	意見概要
健康 福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 事業4－1－4 介護予防と連携した利用促進策の実施については、以下の取組が実現可能であると考える。 <ol style="list-style-type: none"> まめまめラジオ体操や出前講座などの冒頭で時間を設け、チラシ等を用いた「公共交通を活用した健康づくりの取組の推奨」や「運転免許返納後を見据えた公共交通のお試し利用の推奨」、「お試し利用チケットの配付」を実施すること。 運動によるフレイル予防の観点からの介護予防事業として、<u>富山地方鉄道立山線を利用してショッピングセンターアピアに移動し、そこで介護予防プログラムや買い物、談話、ウォーキング等の活動を実施する一連のプログラム</u>を実施すること。 予算査定の結果次第ではあるが、令和8年度からの実施も可能であると考える。 運転免許返納を見据えた場合に、<u>公共交通乗り継ぎ体験会</u>の開催も検討できるのではないか。
健康 福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障がい者の社会参加促進のため、公共交通利用の活性化は必要だと思います。活性化のためには、一つに公共交通を利用したいと思う環境づくりの整備があると考えます。外出することへの不安（階段段差や乗り継ぎなど）解消や外出したいという思いを促進させることです。福祉の観点から、高齢者や障がい者が電車やバスを利用する際、<u>人為的にも物理的にもサポートが充実していることが必要</u>かと思います。一方で、高齢者等外出支援サービス事業が令和6年度末で廃止となりました。身体障害者や要介護認定者の通院等の外出支援を行うことを目的とした事業でしたが、乗降時の介助を受けられないこと、民間サービスが充実していることなどが要因となり、利用する方がほとんどおられませんでした。計画（素案）にもありますが、公共交通活性化のため、<u>住民の声を調査・研究することは重要</u>と思います。
住民課	<ul style="list-style-type: none"> 1－3の事業（案）の<u>運賃の適正化</u>とは、<u>利益を求めるのか、利便性を求めるのか</u>わからない。 1－8の<u>バス停の快適性の向上</u>について、町営バスの停留上の看板は、上り・下りに1基のみの設置がほとんどで、設置場所も町道の歩道や路肩等が多いの

	<p>で環境整備が難しい。1－8、4－5について商業施設の敷地内の停留所の設置について可能かどうか問合せをしている。</p> <ul style="list-style-type: none">・施策2－2の町営バスとスクールバス（交付税措置あり）の統合は難しい。・所管所属（案）について、各課に改めて確認してほしい。・今年度、立山町地域公共交通計画策定調査業務を委託し、持続可能な公共交通の構築の観点から、今後目指すべき地域公共交通の将来像、施策の方向性等の検討に必要な調査、分析等を実施している。現段階ではどのような運行形態になるかわからない。新たな町営バスの運行について委託し検討しているが、町内には富山地方鉄道の駅が13箇所、それ以外に地鉄バス路線、タクシー事業者3者があり、他の市町村より公共交通が充実しているのではと感じる。したがって、地鉄利用客やタクシー事業者に影響がないように町営バス路線を考えることが難しい。特に町営バスを路線運行ではなく、エリアによるデマンド運行とした場合、地鉄・タクシーいずれにも何らかの影響があると思われる。何かよいアイデアはありませんか。
--	--